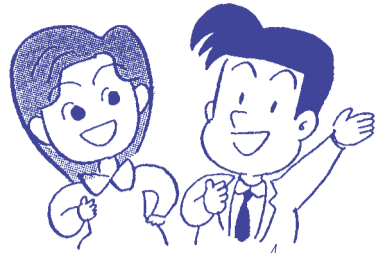


問題別分科会

11月16日(日)

茨木市立 天王中学校



生活科は
こっちです

分科会(世話人)	分科会で話しあいたいこと
発達・評価・学力問題	レポートをもとに、多くの教師や保護者に関心が高い「学力づくり」「学力低下」「学級困難」の問題などを交流します。また、習熟度別クラスや「全国一斉学力・プライバシー調査」の問題点についても話し合います。 明日からすぐに役立つ具体的な実践と、その根底にある子どもの発達のみちすじや子どもとのらえ方も学べるようにします。 子どもを取りまく状況がますます悪くなるなかで、私たちの実践はいつもうまくいくとは限りません。しかし、そのような現実の中にこそ、今日の子どもと教育の課題があります。やさしく、わかりやすい言葉で話し合いが進むように、分科会の運営をわがります。青年教職員や父母の要求にも応えます。 多忙な日々の中で、実践をまとめて下さる報告者の皆さんや貴重な休日に分科会会場に足を運んでくださる参加者のみなさんが、参加して良かったと感じてもらえるような温かい分科会にしたいと思っています。
金井 敬之 (泉大津・旭小) 川岸 雅詩 (市教東南・喜連東小)	
障害児教育	特別支援教育が2年目になりました。これまで憲法や教育基本法の理念をもとに権利としての障害児教育の実践を切り拓いてきました。 特別支援教育の名のもとで、個別の指導計画の押しつけや特定の行動療法を専門性のあかしとしてしめつけてくる危険性を感じます。また、橋下知事の「大阪維新プログラム」が教育条件に与える影響も看過することはできません。 とりわけ改悪「教育基本法」の具体化を許さないためにも「生活・障害・発達」を大切に、援助を求めている全ての障害児に教育を保障できるように議論しましょう。一人ひとりの実践から子どもの発達を生み出す教育条件整備や運動についても語り合しましょう。また、各地での状況を交流しましょう。
大島 悦子 (市教城北・高倉小) 中元 正文 (府障教・茨木支援) 太田 昌美 (市障教・住之江養)	
幼年教育と保育問題	子どもたちを取りまく環境は、子どもたちのすこやかな成長・発達を保障したいと願う私たちの思いとは大きくかけ離れ、あらゆる分野で大変な状況になっています。 本来どの子どもも持っているはずの子どものらしさをとりもどすために、どのような保育・教育を進めていくのか、そのために父母・地域と手を結ぶ運動をどのように広げていくのかについて、実践に学び、改訂教育要領や保育指針についても批判検討していきましょう。 ①保育所・幼稚園と小学校との接続問題について実践をもちより、学び合しましょう。 ②改訂学習指導要領の批判・検討を行い、「愛国心」や「規範意識」、「学びの連続性」、「預り保育」、などの問題点を出し合い、子どもたちが主人公になる教育課題づくりを、父母・地域と手を結び考え合ひましょう。 ③厳しい労働条件の私学教師と共に、働きがいのある職場づくりのための運動を交流していきましょう。
木村 順子 (東大阪・小阪幼) 吉永 真弓 (市教東南・加美北幼)	
学校の「多様化」、入試制度・進路指導	文科省・府教委が強引にすすめる「教育改革」は、子どもたちに「愛国心」などを押しつけながら、いっそう競争に駆り立て、教育の場における「格差」を広げようとしています。橋下府政の教育政策も本質は同じです。しかし、そんな中でも子どもたちはけなげに懸命に成長しようとしています。そんな子どもたちの姿をリアルに出しあい、子どもたちの成長・発達を保障するために何をすべきかを考えましょう。 「学校つぶし」、多様化・特色づくり、学区拡大などは、もはや高校だけの問題ではありません。統廃合、通学区自由化は、小中にも及ぼうとしています。この間の「教育改革」の実態や影響を明らかにしましょう。 少子化による「生き残り」をかけた私学の動きも含め、多様化や入試、進路指導は大きく様変わりしています。小中も含め、公立・私学の教職員、父母が一緒になって「学校のあるべき姿」や「進路をきりひらく力をどう育てていくか」などについて語り合ひましょう。
金田 政則 (堺・陵南中) 米山 幸治 (府高教・本部)	

人権教育	児童・生徒の基本的な人権を守り、育てる教育実践や教育運動を交流したいと思います。 大阪府の市町村では、長年にわたり行政と部落解放同盟の癒着や同和利権が続いてきました。これらの構造を明らかにし、同和行政・同和教育を終わらせる運動をすすめていきましょう。 官製「人権教育」や大阪府人権教育研究協議会がすすめる「人権教育」が、部落差別を新たに生み出し、児童・生徒の人権認識をゆがめていることを明らかにしていきましょう。 私たちがすすめる教育は、教育の自由、研修の自由が保障された上で、どの子にも確かな学力と生きる希望を育む教育です。各職場で行われている豊かな教育実践をもちより、交流していきましょう。 人権教育をどうすすめたらよいか悩んでいる先生方、特に若い先生方の積極的な参加を期待しています。
小林 優 (市教北大阪・小松小) 亀谷 義富 (泉南・箱作小)	

男女平等の教育小分科会	「育児休業」が男女共に取得できる制度ができて、男性も育児に参加する機会がふえるというプラス面がまだまだ生かされていませんし、少子化問題は仕事と育児を両立させる対策が進まず、保育園や学童保育が民営化の危機にさらされるなど、少子化に拍車がかかる等、その対策は遅れています。地道に積み上げられてきた家庭科の意義や位置づけも問われています。生きる基本を学ぶ「家庭科」や、いのちの大切さを学ぶ「性教育」などが軽視または敵視されパッシングを受けているのが現実です。子どもたちの要求、父母、家庭との連携の中で、パッシングを許さない地道な実践を積み上げ、交流しあいましょう。また、進路・労働・家庭・性に関する課題を話しあい、男女の平等意識を育てる実践を交流しましょう。そして、子どもも大人も人間らしく豊かに生きたいという願いを実現させるための学校や教育の果たす役割を考え学び交流しましょう。
沖田 恵子 (吹田・藤白台小) 奥野 喜美子 (市教城北・中野小)	

平和と国際連帯の教育	日本国憲法が示す平和の実現とその展望を明らかにするため、以下の視点から教育実践と研究をすすめる。 ①戦争の実態を正しく把握させ、平和を守る展望を明らかにする。過去の戦争については、被害・加害・反戦抵抗などの側面から学習をすすめる。歴史の真実をゆがめる動向にも関心をむける。 ②核兵器廃絶や日本の軍備・基地・安保条約の現状や課題を明らかにし、平和と民主主義・暮らしを守る思いを育てる。 ③「いつでも、どこでも」平和にたいする子どもたちの思いを育て、その自主的な活動を励ます。 ④多様な国際社会の文化・民族についての理解を深め、国際連帯の思いを育てる。
木村 薫 (八尾・書記局) 要 美奈子 (元泉佐野・日根野中)	

民主的な学校づくり	学校現場で起っている様々な問題を率直に出し合い、今学校に求められているものは何なのか？ また、子どもたちが求めているものは何なのか？ そして、保護者や教職員を悩ませている、苦しめているものは何なのか？ じっくり考えてみましょう。 新自由主義が幅を利かせている昨今、学校現場にも歪んだ資本主義の観点が持ち込まれています。今ほど原点に戻って、子どもたちが主人公の学校、豊かな学びを保障する学校、保護者と教職員そして子どもたちと共に作り上げていく学校が求められている時はないのでしょうか。 憲法がうたった民主主義・主権在民主主義・国際平和主義、そして基本的な人権の保障が現実のものとなるために、人格の完成を目指し平和的な国家及び社会の形成者という理想に一步でも近づくために、まず身近なところから「参加と共同の教育・学校づくり」について話し合ひましょう。
福崎 誠次 (寝屋川・啓明小) 守山 禎三 (市障教・光陽養)	

父母・地域住民との共同	橋下知事の大阪維新プログラムで、教育予算が大きく削られ、教育が破壊されようとしています。小学校の35人学級は継続したもの、私学助成の削減・臨時教職員の雇い止め・学校予算の削減など、子ども・父母・教職員に犠牲を強いるプログラムに、府民的な反対運動も大きく広がっています。 教育基本法の改悪や『橋下行革』などの競争主義をあおる教育政策の中で、子どもの幸せを願う人々の共同が今ほど求められている時期はありません。 そのような中で、次のような話し合いをします。 ①子ども・父母・教職員の願いや思い・実情を率直に話し合ひましょう。 ②子ども・父母・教職員の声に応える学校づくりをどう進めるかを話し合ひましょう。 ③『橋下行革』をはねかえす運動をどう作っていくかを話し合ひましょう。
馬場野 成和 (八尾・大正中) 前田 光男 (府高教・佐野高)	

あなたの実践を大教組教研へ